

野鳥公園ラウンジカフェニュース



2013年10月

野鳥公園ラウンジカフェとは

多くの渡り鳥が飛来するなど豊かな自然環境を有する博多湾、その東部に新しいまちづくりが行われているアイランドシティに、約12㍻の野鳥公園の整備を予定しています。野鳥公園ラウンジカフェは、住民や学生など市民をはじめ、専門家、事業者、NPO、行政など多様な主体が野鳥公園の整備や活用、運営に向けて語り合う場です。



第6回開催状況

これまでの経緯

第1回ラウンジカフェ 「野鳥公園ってなに？」 2012年11月11日(日)	第2回ラウンジカフェ 「〇〇ができる 野鳥公園」 2013年1月19日(土)	第3回ラウンジカフェ 「32のコンセプトの中で 大切にしたいものは？」 2013年3月16日(土)	第4回ラウンジカフェ 「実際のたつき台プラン に対する意見」 2013年5月25日(土)	第5回ラウンジカフェ 「レゴ®シリアスプレイ ～理想の野鳥公園～」 2013年6月16日(日)
---	---	--	---	--

2013年9月21日(土)

第6回野鳥公園ラウンジカフェ 「野鳥公園の様々な場面を描こう」



野鳥公園のコンセプト

成長する野鳥公園

～人と自然が共に成長し続けるために～

基本的な方向性(案)

人の成長

- 自然環境を学ぶことで人が育つ
- 人と人との繋がり(コミュニティ)が育つ
- 市民が参加する公園運営の仕組みが育つ

自然の成長

- エコパークゾーンとの一体的整備で自然環境が育つ
- 時間をかけることで公園環境が育つ

目指すべき野鳥公園の将来像(案)

新たな発想により公園価値が育ち、アイランドシティ全体の魅力向上に繋がる

キーワード

- 様々なアクティビティ
- 時間とともに変化していく空間
- 驚きや感動
- 自然環境の素晴らしさ
- 生物多様性の大切さ
- 竣工しても完成ではない
- エコパークゾーン全体で考える
- 市民との共働
- パークマネジメントシステムの構築
- 人が野鳥公園によって育てられる
- 人が野鳥公園を育てる
- 新たな価値
- 利用者との新しい関わり
- まちとしての成長
- アイランドシティ全体の魅力の向上



それは野鳥公園という場所で起こる

そう遠くない未来の出来事

次回案内

第7回 野鳥公園ラウンジカフェ

日時 2013年11月2日(土) 13:00～16:00 開場 12:30

場所 福岡ビジネス創造センター：福岡市東区香椎照葉3-2-1 シーマークビル

プログラム 活動プログラムをまとめた「ストーリーボードをつくろう!!!」

～ダイアログ(対話)を重視した様々なファシリテーション手法を活用して、楽しくかつ話しやすい雰囲気が進めます～

第6回ラウンジカフェで作成したストーリーボードのたたきをもとに、いよいよ完成に向けた作業に入っていきます。作成したストーリーボードは、12月に市役所1階のロビーで「オープンセッション」と銘打ち展示します。多くの市民の皆さんに、理想の野鳥公園の場面(シーン)をプレゼンしませんか? いよいよラウンジカフェも大詰めを迎えました。あなたと、あなたの周りの人たちが、やがて野鳥公園を訪れる。その場面を一緒に描きましょう!!

●参加費：無料 どなたでも参加できます!

●主催：福岡市環境局

申し込み締め切りは10月30日(水)です

◆参加を希望される方は、電話、FAX、メールのいずれかで、氏名、住所、連絡先(電話番号もしくはメールアドレス)を添えてお申込みください。グループやご家族で参加される場合は、全員の人数をお伝えください。

お申し込み先/お問い合わせ先 福岡市役所 環境局 環境調整課 野鳥公園整備担当 【担当：名川】

TEL 092-733-5389

FAX 092-733-5592

MAIL nagawa.m02@city.fukuoka.lg.jp



参加者募集!!

第6回野鳥公園ラウンジカフェの振り返り

■開催日時：2018年9月21日（土） 10:00～12:30 ■会場：AQUA博多 ■参加者：28名



このラウンジカフェでの取り組み（市民プロセスの実現）は全国的にも注目されています。全国の先駆け事例として、成功させましょう！

ファシリテーターの田坂さん

プログラム
 10:00 あいさつ、本日のプログラム説明
 10:10～ これまでの経緯とコンセプトの説明
 10:30～ 今後の展開と質疑応答
 11:30～ ワールドカフェ
 →ストーリーボードに表現したい野鳥公園の活動プログラムについて話し合います。
 12:15 発表
 →各班で考えたストーリーボード案を共有。
 12:30 終了

これまでの経緯とコンセプトの説明

約3ヶ月ぶりの開催でしたので、これまでのラウンジカフェで話し合ってきたことをこれまでのニュースを見ながら、簡単に振り返りました。

これまでの話し合いから生まれた、「野鳥公園のコンセプト」、「キーワード」を共有し、「基本的な方向性（案）」と「目指すべき野鳥公園の将来像（案）」の提示が事務局からありました。【表紙参照】

今後の展開

○検討委員会について

これまでの野鳥公園ラウンジカフェで出た市民意見を参考にして、施設整備等に関し専門的見地から意見や助言をいただくために、検討委員会を設置することになりました。今年度3回の開催を予定しており、第1回は10月3日に開催されました。

○今後のラウンジカフェの動き

これまでのラウンジカフェでは、抽象的なイメージ検討を行うことでコンセプトの設定に結び付けましたが、これからは、より具体的な場面を描く段階に入っていきます。

委員会の開催に合わせて年内にあと2回ラウンジカフェを行い、市民からの提案として「野鳥公園でできること」をまとめ上げます。

最終的な提案は、分かりやすく、かつインパクトのあるストーリーボードで表現し、12月に市役所1階ロビーに展示することで、より多くの市民意見を拾い上げたものとしてまとめます。

野鳥公園での一つの場面（イメージスケッチ）



場面の解説（ストーリー）

ストーリーボードって??

散策しながら野鳥観察をしたり野鳥の声を聞いたりしたい!

野鳥公園でできることを表す一つの場面をイメージスケッチとストーリーを用いて、よりわかりやすく伝えていきます。

参加者からの質問と市からの回答

Q: 検討委員会への出席は可能ですか?

A: 委員会はオープンな場ですので、申込み頂ければ聴講は可能です。

Q: 検討委員会ができればラウンジカフェは終わりなのですか?

A: 12月まで一旦、区切りをつけて、今後は野鳥公園の運営面を話し合う場を設けたいと思っています。

Q: 検討委員会って具体的に何を検討するのですか?

A: 市民意見を具体化する中で、大学や国関係などの専門的立場で助言していただきます。

Q: 委員会で検討した内容をラウンジカフェの場に返してもらうことはできないのですか。自分たちの意図したものと異なる計画になるのが心配です。

A: ラウンジカフェでの市民意見をきっちり取りまとめた上で、それに基づいて委員会で検討していただくことにしています。第2回の委員会後にラウンジカフェを開催するかどうかは状況を見て検討します。

Q: 野鳥公園をエコパークゾーンの一部として考えることが大塚ですが、委員には飛来する様々な鳥の生態に詳しい専門家も入っていますか?

A: エコパークゾーンのモニタリングを毎年港湾局でやっていて、それに関係する委員も入る予定です。

参加者の意見

良い提案をしよう

・市民が望む野鳥公園はこれだというものを考えよう!市民の立場というよりも、誰が考えようと素晴らしいものを考えよう!

市民の手で自然を再生しよう

・人間が壊してしまった和白干潟を福岡市民の手で再生したという大きな気持ちで考えたい。野鳥も遠い東南アジアから来てくれるわけであるので、ここで休んでくださいという気持ちで参加している。
 ・和白海域は鳥獣保護区であり、そこを含めた周辺がエコパークゾーンと位置づけている。野鳥公園の12haだけではなくエコパークゾーン全体を考えながら進めると良いのではないかな。

ラウンジカフェの中で図面を描くところまでできないか?

・今回個々のイメージをつかって、11月のラウンジカフェはイメージを基にした図面まで描けると良いのでは?
 ・鳥の特区をつくらうというプラン、人の環境教育を大切にしようというプランがあり、いろいろな意見が出ている。一つに決めるのは難しいのでは?
 ・いけるところまで描いてみるのもありかもしれない。
 ・限られた時間の中で、できることをやるというのはどうか。

ワールドカフェ～野鳥公園の様々な場面を描こう～

ストーリーボードの中に絶対に盛り込みたいシーン（場面）を話し合いながら、キーワードとなる言葉や絵、図などを織り交ぜ、各班思い思いのストーリーボードの素案を組み立てました。

大切だと思う活動プログラムは?



他の班の考えも取り入れて

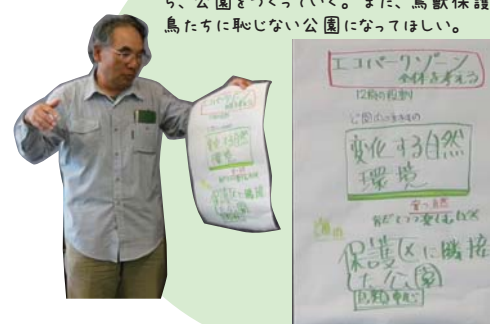


シーン（場面）を表現します



ストーリーボードに盛り込みたいシーン（場面）はこれだ!

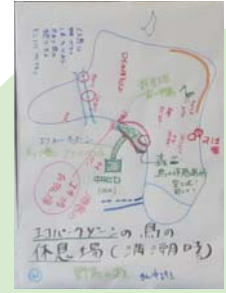
・エコパークゾーンを考えてやっていきたい。12haの野鳥公園はつくって終わりだけでなく、つくり続ける。ここにいるいろいろな生き物や樹木や植物を育てながら、公園をつくっていく。また、鳥獣保護区であり、鳥たちに恥じない公園になってほしい。



・野鳥専門の公園なのか野鳥にも興味がない人でも楽しめるのか、自然に任せるか造成するか、という軸で考えた場合、面積比では鳥のためが7、人のためが3くらいでは?



・環境学習に重きをおきたい。小中学校を対象に学習をする。一般の人たちがボードウォッキングや散歩を楽しむ。そして地域では昔モリや塩をつくらっていた歴史があるので、それを学べる場、世代間交流の場、いろんな体験学習ができる場にしたい。



・鳥が休憩できる場が全体の少ないのでそういう場をつくりたい。あくまでエコパークゾーン全体で捉える。



・家族でつらげる公園 キッチフレーズは「野鳥公園でもいこうか」という、週末に気軽に行けるような場所にしたい。親は新聞を読んでいる、子どもは勝手に見慣れない鳥を見て学んでいるような場面である。



次回に向けて...

専門的な検討を行う委員会が設置されるという知らせを受けて、参加者の皆さんもラウンジカフェで検討してきた内容をまとめる時期に来たと実感し、より良い提案にしようとして議論にもますます熱が入ってきました。
 次回は今回出てきたストーリーボード案に加えて、これまでのラウンジカフェで話し合った活動プログラムをまとめ、12月の展示に向けてとりまとめの作業を行います。



成果

各グループで考えたストーリーボードは壁一面が埋まるくらいの枚数になりました!



10月3日開催の検討委員会における主な意見

1. エコパークゾーンの拠点となる野鳥公園として、エコパークゾーン全体の情報が得られ、環境学習が行えるような場所が望まれる。
2. 市民や企業のボランティア活動や寄付によって公園の整備や運営を行うなど野鳥公園整備によって新しい環境モデルの構築が望まれる。
3. 一般的な街中の公園のようなものではなく、干潟の重要性を伝える公園になってほしい。
4. 公園内でにぎわいを持たせる場所と自然を優先させていく場所を分けることが重要である。
5. 野鳥公園ラウンジカフェに代表される市民の声を取り入れ、明るく、楽しく、市民の笑顔がふえる公園になってほしい。